

# 組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

キャリア開発センター

部局長名：

許 南浩

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	
<p>1)キャリア形成&lt;基礎講座&gt;について、前年度で検討した指標による教育効果の分析を行う。</p> <p>2)平成28年度に開講される全学ガイダンスにおいて、60分授業・クォーター制も視野に入れながらキャリア教育に関する教育内容・方法の開発を行う。</p> <p>3)学生の正課外活動をより一層展開できるための継続的な支援を行う。</p>	<p>1)キャリア形成&lt;基礎講座&gt;領域について、前年度で検討した指標に基づき、該当するすべての授業科目について教育効果の分析を行うことができた。また、当該領域に加えて&lt;実践講座&gt;及び&lt;総合演習&gt;領域においても同様の指標で教育効果分析を行い、いずれも良好な分析結果と今後の課題を明らかにすることができた。以上の結果については、平成27年度センター年報によって報告した。</p> <p>2)平成28年度開講予定の全学ガイダンスに向けて、該当する授業内容を今年度後期開講のキャリア形成&lt;基礎講座&gt;Ⅰにおいて試行的に行い、60分授業を想定したキャリア教育に関する内容と方法の改善に取り組むことができた。後者についてもより一層自立したテキストの内容を精選・検討して、全学ガイダンスに使用するテキスト『岡山大学入門テキスト(岡山大学出版会)』に反映させることもできた。</p>
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<p>1)年報等による教育効果の分析結果</p> <p>2)キャリア教育に関する教材等</p> <p>3)年報等による報告</p>	<p>3)「学生企画チーム 岡プロ!」並びに「校友会」に対して継続的支援を行った。前者については学生たちの新たな2つの企画プロジェクト立ち上げに関わり、参画学生数も20名程度増員され、組織の活性化を促すことができた。後者についてもより一層自立した委員会体制構築に向けたアドバイスをし、校友会活動の組織的な強化を図ることができた。以上の成果を平成27年度センター年報によって報告した。</p>
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	
<p>1)教育領域と連動した分析結果を研究的観点から論文化し、紀要等にて公開する。</p> <p>2)平成28年度からの新しい授業形態に対応するための内容・方法の開発と期待し得る効果を論文化し、紀要等にて公開する。</p>	<p>1)キャリア教育の一環として取り組んできた正課外活動支援に関して、特に「学生企画チーム 岡プロ!」へ参画する学生及び卒業生のキャリア形成についてインタビューを中心とした調査・分析を行った。岡プロ!の活動を通じて、卒業生が学生期間中に豊かな人格形成を果たし、社会人になってからもこの経験が生かされていることなどを明らかにして、「大学教育研究紀要 第11号」で報告した。また、キャリア教育授業科目においてもこれまでのアンケート結果を精緻に分析し、同様の紀要で報告した。</p> <p>2)前項のキャリア教育授業科目における教育効果分析を通じて、当該授業科目の成果と課題を明らかにするとともに、平成28年度に向けての改善点などを明確にし、「大学教育研究紀要 第11号」に掲載・投稿した。併せて、キャリア形成&lt;実践講座&gt;Ⅰの授業科目に関して、新しい授業形態に向けてアクティブラーニングのあり方や方法論について明確に方向付け、実際の授業へ活用できるための教材として『コミュニケーション実践入門(かもがわ出版)』を出版・刊行した。</p>
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<p>1)関係学会における研究発表及び「大学教育研究」等の紀要</p> <p>2)関係学会における研究発表及び「大学教育研究」等の紀要</p>	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	
<p>1)卒業生フォローアップセミナーの継続開催とAlumniとの連携強化を図る。</p> <p>2)学生が行う課外活動と関連付けた地域貢献活動の積極的な展開を支援する。</p>	<p>1)東京地区における卒業生フォローアップセミナーを、6月、10月、3月に合計3回実施した。今年度より主催をAlumni東京支部に移管し、キャリア開発センター協力事業として実施した。各回の実施状況は、平成27年度センター年報によって報告した。</p> <p>2)「学生企画チーム 岡プロ!」においては、地域行事へ積極的に赴いたり、学内行事へ地域の方々を招いたりと積極的な活動を展開してきた。また、「校友会」においても、地域清掃活動や自転車無灯火ゼロ運動を継続して取り組み、地域の方々からも評価を得ることができている。これらの活動については、各活動の実施報告書を通じて、平成27年度センター年報によって報告した。さらに、地域貢献にますます積極的に取組むべく、各組織を横断した「地域つながり委員会」の自主的立ち上げをサポートし、次年度以降の活動基盤をつくることもできた。</p>
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<p>1)実施報告書及び年報等による報告</p> <p>2)実施報告書及び年報等による報告</p>	
<b>④センター業務</b>	
<b>④-1 目標</b>	
<p>1)就職活動スケジュール変更に対応した就職支援行事を開催する。</p> <p>2)学生相互の就職支援体制と他大学との連携の強化を図る。</p> <p>3)校友会クラブと学生企画チームとが連携することによって、正課外活動がより一層充実できるための支援を行う。</p> <p>4)東京サテライトオフィスでの学生支援と卒業生・企業・官公庁への対応を行う。</p>	<p>1)就職活動の後ろ倒しに伴い、計8回の就職ガイダンスの本格的なスタートを12月中旬として(全体的なスケジュール把握のためのガイダンスは11月の初旬に開催)、就職活動の準備段階として春休み前までに5回終了し、今後3回のガイダンスを通じて、現実に対応させた内容で支援を続けていく予定である。行事ごとに実施報告書を作成しているが、ガイダンス毎に学生からのアンケートを集計し、内容や開催時期等について、就職活動が終息する7月頃行う予定である。</p> <p>2)就職活動を終了した学生(4年生・修士2年生)がリーダーとして、今年度就職活動を行う3年生との就職活動支援チーム「就活オ・レ!」結成し、2月には、学生目線から就職活動を教示する「就勝セミナー2016」及び就活を終了した学生と卒業生による「先輩とのアドバイス会」を企画・実施、約200名の学生が参加するなど、学生同士の支援体制を継続することができた。また、昨年から開催している中四国国立大学合同企業説明会に加え、岡山県内の大学(コンソーシアム加盟大学)と岡山県の共催による、地元企業と学生を結ぶ合同企業説明会を企画・立案した。3月10日に説明会を実施し、約1500名の学生と120社の企業の参加を得た。学生の効率よい就職活動を促すため次年度以降は更に規模を拡大し継続していく予定である。</p> <p>3)12月に開催された「岡山大学*輝き*2015」においては、岡プロ!と校友会との連携を促し、イルミネーション点灯式やOKADAI AWARDS2015などの行事を成功に導いた。この取り組みを通じて、それぞれの企画・運営の中で組織を越えた協力体制が構築された。また、その他の場面でも交流の場などを設けることで組織の連携強化に努めた。以上に関しては、平成27年度センター年報によって報告した。また、前項の「地域つながり委員会」によって、校友会クラブと学生企画チームのみならず、さらに広範な学生団体とも連携できるように方向づけ、平成27年度第5回センター運営委員会でも報告した。</p> <p>4)東京サテライトオフィスにて、就職支援活動を行うとともに、CIC主催の採用・就職セミナーへの参加等を通じて企業とのコンタクトを図った。また、首都圏プレインターンシップでの企業との各種調整、中央官庁勤務のOB・OGとの交流会を開催した。</p>
<p>1)就職ガイダンス等の実施状況報告書</p> <p>2)就職支援行事の実施状況報告書</p> <p>3)実施報告書及び年報等による報告</p> <p>4)東京サテライトオフィス利用状況</p>	

## 【総括記述欄】

※管理・運営面についても検証した上で、今年度の達成状況を総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

教育領域に関しては、継続して教育効果の分析方法の改善と、正課外活動の支援内容の充実を図り、その成果について年報や紀要等で報告することができた。まさに前年度までの取組みが一定の結実を見せたといえる。同時に、平成28年度以降の新たな教育改革に向けて、キャリア教育の積極的な再構築に取り組み、充実した教材を開発し、スムーズな移行を目指すことができた。正課外活動支援においても、既存の取組みに終始するのではなく、「地域つながり委員会」などの発展的な基盤を学生と共同で構築することができた意義は大きいといえる。

キャリア開発センター業務では、スケジュール変更に対応した就職活動支援行事や学生相互によるサポート体制の再構築を行い、3月中旬現在、学生は順調に活動を開始している。また、今年度は民間企業勤務の卒業生との懇親会(首都圏ブレインターンシップ)に加えて、中央官庁勤務の卒業生と公務員学生との交流会(中央官庁セミナー見学ツアー)を都内で開催したり、卒業生による国家総合職説明会を岡山大学で開催したりと、中央官庁受験の支援強化を図ることができた。次年度から別組織となる東京サテライトオフィス、またはAlumniとの業務分担を明確にし協力体制の強化を図っていく必要がある。